

# 北九州貨物鉄道施設保有株式会社

## I 法人の概要（令和3年4月1日現在）

### 1 所在地

北九州市門司区大里新町11番1号

### 2 設立年月日

平成11年4月26日

### 3 代表者

代表取締役社長 中川 哲朗

### 4 資本金

400,000千円

### 5 北九州市の出資金

196,000千円（出資の割合 49.0%）

### 6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	7人	0人	0人	7人
常 勤	1人	0人	0人	1人
非常勤	6人	0人	0人	6人
社 員	2人	0人	0人	2人

### 7 市からのミッション

貨物鉄道のターミナルなど団体の保有する駅施設の貸付及び設備の維持管理を通じ、本市のさらなる物流拠点化及びCO<sub>2</sub>削減への取組に寄与する。

## II 令和2年度事業実績

平成11年度から国の幹線鉄道等活性化事業費補助並びに北九州市の門司鉄道コンテナターミナル整備支援事業費補助を受け着手した、門司貨物拠点整備事業の設備が平成14年3月に完成し、また平成19年度から国の幹線鉄道等活性化事業費補助を受け着手した、鹿児島線（北九州・福岡間）鉄道貨物輸送力増強事業の設備が平成23年3月末に完成した。

これら施設の当該事業年度における維持管理は、北九州貨物ターミナル駅において、電子連動装置延命化工事、入換信号機等LED化工事（第1期取替工事）、東機待7番線電車線取替工事、軌道変移超過箇所整備、総合事務所外壁塗装修繕工事、給油装置（2組）給油機取替工事、福岡貨物ターミナル駅においては、コンテナ案内板取替工事を日本貨物鉄道株式会社の施工で実施した。

当社は、鉄道施設を日本貨物鉄道株式会社に賃貸することで成り立っており、今後とも鉄道施設の維持・管理に努めていく。

当事業年度の施設使用料は、日本貨物鉄道株式会社との「鉄道施設等の使用に関する契約」に基づき、286百万円となった。長期借入金返済については、みずほ銀行へ59百万円及び日本政策投資銀行へ136百万円の返済を行った。

売上原価194百万円、販売費及び一般管理費は30百万円となっている。

以上のような状況のもと、経常利益は7百万円となった。



2 損益計算書（総括表）

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月 31日 （単位：千円）

科 目	金 額	
<b>【売上高】</b>		
施設貸付料		286,765
<b>【売上原価】</b>		
租税公課	26,016	
減価償却	166,453	
補償負担金手数料	2,430	
		194,900
<b>売上総利益</b>		<b>91,865</b>
<b>【販売費及び一般管理費】</b>	30,523	30,523
<b>営業利益</b>		<b>61,341</b>
<b>【営業外収益】</b>		
受取利息	281	281
雑収入		
<b>【営業外費用】</b>		
支払利息	54,395	54,395
<b>経常利益</b>		<b>7,227</b>
<b>【特別損益】</b>		
固定資産除却損	2,223	2,223
<b>税引前当期純利益</b>		<b>5,004</b>
法人税、住民税及び事業税	2,081	
法人税等調整額	237	2,319
<b>当期純利益</b>		<b>2,685</b>

※金額は千円未満切り捨て

#### IV 令和3年度事業計画

当社の主たる事業は、国、並びに北九州市の補助金を受けて構築した設備を日本貨物鉄道株式会社に賃貸することであり、財産の保守、維持管理が重要となっている。

そのため、日本貨物鉄道株式会社と締結した「鉄道施設の使用及び保守に関する協定」及び「補助金で取得した財産の改良に関する覚書」に則り、定期的に使用実態の確認を行い、財産管理の徹底と、適正な保守及び維持管理に努めるとともに、健全な会社運営を維持するために効率的な資金計画を策定し、日本貨物鉄道株式会社と打ち合わせながら、着実な長期借入金の返済を行っていく。

また、わが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令等により、社会経済活動が大きく停滞しており、ワクチンの接種が順次進められる等、改善への兆しも見え始めてはいるものの先行きは依然不透明な状況である。物流業界においては、巣ごもり需要等により宅配便をはじめとした一部品目において輸送量が伸びており、貨物鉄道も回復傾向にある。さらに、「カーボンニュートラル」が政府の政策目標として掲げられ、グリーン社会・持続可能な社会に向け、各企業における事業活動においてより一層SDGsやESGへの配慮が求められるようになっており、環境特性や労働生産性に優れた貨物鉄道が果たす役割への期待はますます高まっていくものと思われる。この様な状況に応えるため、日本貨物鉄道株式会社と北九州市との連携を深め鉄道貨物輸送の拡大と地域の発展に寄与していく。

## V 令和3年度予算

予定損益計算書

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月31日 (単位：千円)

科 目	金 額	
<b>【売上高】</b>		
施設貸付料		310,294
<b>【売上原価】</b>		
租税公課	24,367	
減価償却	164,532	
補償負担金手数料	2,370	191,269
<b>売上総利益</b>		<b>119,025</b>
<b>【販売費及び一般管理費】</b>	33,554	33,554
<b>営業利益</b>		<b>85,469</b>
<b>【営業外収益】</b>		
受取利息		
雑収入		
<b>【営業外費用】</b>		
支払利息	49,869	49,869
<b>経常利益</b>		<b>35,600</b>
<b>【特別損益】</b>		
固定資産除却損	31,800	31,800
<b>税引前当期純利益</b>		<b>3,800</b>
法人税、住民税及び事業税	1,824	1,824
法人税等調整額		
<b>当期純利益</b>		<b>1,976</b>

※金額は千円未満切り捨て

## VI 役員名簿

令和3年7月1日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	中川 哲朗	日本貨物鉄道(株)九州支社長
専務取締役	小西 一史	常勤取締役
取締役	池永 紳也	北九州市産業経済局 企業立地・農林水産担当理事
〃	辻 誠治	北九州市港湾空港局長
〃	金谷 淳史	日本貨物鉄道(株)経営統括本部 インフラ整備推進部 部長
監査役	成瀬 浩司	(株)みずほ銀行社会・産業基盤第二部鉄道運輸チーム次長
〃	三輪 敦	日本貨物鉄道(株)経営統括本部 財務部 副部長

